

## 令和4年度 第1回下野市小中一貫教育推進協議会 議事録

審議会等名 令和4年度 第1回下野市小中一貫教育推進協議会  
日 時 令和4年8月9日(火) 午後3時00分～午後5時00分  
会 場 下野市役所 203会議室  
出席者 海老原忠 委員、田澤孝一 委員、設樂孝男委員、瀬端徹 委員、  
松本文男 委員、服部由佳 委員、小島恒夫 委員、菅井貞雄 委員、  
宮崎真人 委員、伊沢幸子 委員、大塚洋子 委員、小野瀬善行 委員、  
渡邊欣宥 委員、平石勝美 委員  
【欠席委員】人見佳代子 委員  
市側出席者 石崎雅也 教育長  
(事務局) 石島直 学校教育課長、稲葉亜希恵 同課課長補佐兼指導主事、  
森口哲二 同課主幹兼課長補佐、土田礼巳 同課指導主事、  
上野保久 同課小中一貫教育統括コーディネーター  
公開・非公開別 (公開) ・ 一部公開 ・ 非公開)  
傍聴人 0人  
議事録(概要) 作成年月日 令和4年8月10日

### 1. 開会(石島課長)

### 2. 委嘱状交付

### 3. 教育長あいさつ

### 4. 委員紹介(自己紹介)

### 5. 会長、副会長選出

#### 会長あいさつ(小野瀬会長)

ただいま会長職を拝命いたしました、宇都宮大学の小野瀬でございます。昨年に引き続き、会長を務めさせていただきます。私は平成30年の本協議会発足当初から関わらせていただきました。今年は南河内小中学校の開校、また新しい市長さんが就任する中で、大切な新しいステージに入ってきたのかなと思います。下野市内の学校の実践を共有・点検し、発信していくお手伝いができたらと思っております。委員の皆さまのご協力をどうぞよろしくお願いいたします。

#### 副会長あいさつ(渡邊副会長)

副会長に指名されました渡邊と申します。自治会長として17年間、民生・児童委員として18年ほどたちました。また、緑小、南河内第二中の学校運営協議会の委員にも選出され、いくらか教育にも関心を持っております。とはいいいながら、まだまだ勉強することがたくさんあると思います。皆様のご協力をいただきまして、副会長を務めさせていただきます。よろしくお願いいたします。

## 6 小中一貫教育推進協議会の開催趣旨について

(小野瀬会長) まず、小中一貫教育推進協議会の開催趣旨について、事務局から説明をお願いします。

(森口補佐) [資料2：下野市小中一貫教育推進協議会の開催趣旨（令和4年度）について説明]

(小野瀬会長) ただ今の説明について、ご質問等ありましたらお願いいたします。

## 7 小中一貫教育ハンドブックについて

(小野瀬会長) つづきまして、『小中一貫教育ハンドブック』について、事務局から説明をお願いします。

(土田指導主事) [資料：「小中一貫教育ハンドブック」について説明]

(小野瀬会長) ただ今の説明についてご質問等ございましたらお願いいたします。

## 8 報告

(小野瀬会長) それでは報告に入ります。本市の小中一貫教育について、事務局より説明をお願いします。

### (1) 本市の小中一貫教育について

(土田指導主事) [資料：「令和4年度～5年度 下野市 小中一貫教育推進計画 第Ⅳ期」、「下野市小中一貫教育の具体 第Ⅳ期（R4～R7）」、「〈令和4年度〉下野市小中一貫教育成果指標に関する評価」、「小中一貫教育 教職員アンケート結果 令和4年2月15日集計」について説明]

(小野瀬会長) ただ今の報告について、ご質問等ありましたらお願いします。

小中一貫教育推進の成果指標ということで具体的な数値が示されました。平成30年度と令和3年度の数値の比較と、先生方へのアンケートについてご報告いただきました。やはり、コロナ禍の影響が出ているということでした。報告につきまして、委員の皆様方から何かご質問等ありましたらお願いします。

(小島委員) 最近、ちょっと気になるのが、学校運営協議会についてです。各校の地域に対する情報発信がバラバラな感じがします。去年までは南河第二中の議事録がすばらしいものができていました。学校によっては議事録にもなっていないところもあるようです。先生達も忙しくて作ってられないということはわかりますが、簡単な形で作れると思います。現在のような状態では、ますます地域に理解されないのではないかと思います。対応が必要かと思います。

(土田指導主事) 今のお話にありました議事録については、学校には、「簡易な形でまとめていただいて差し支えない。」といったことも伝えているところですので、学校によって差が出ているところかと思います。ただ、今回の第4期におきましては、各地区との情報共有ということ、1つの大きな方向性としてハンドブックにもお示ししているところですので、こういった議事録や、各学校の取り組みなどを発信して、共有できるような方法を検討していきたいと思っています。それについても、また、皆様からのご意見を伺えればと思いま

す。

(小島委員) 少なくとも中学校区だけでも集まって議論することが大切だと思います。共通認識をするために集まることで、よりよい運営ができると思います。できればそういう形を作っていきたいと思います。

(小野瀬会長) 貴重なご意見、情報提供、ありがとうございました。後の報告で、各中学校区のいろいろな報告があると思いますので、よろしくお願いします。そのほか、この辺はどうでしょうということがありましたらお願いします。

(伊沢委員) 評価について、2番の「将来の夢や目標を持っていますか」というところで、平成30年度より数値が下がっているのが気になっています。やはり、夢とか何になりたいとか、目標を持っていた方がやる気になると思うのですが、この評価では、ただ、やる気がなく、だらんとしている気がします。せっかく小学1年生から中学3年生まで9年間教育を受けるのであれば、毎年、最初と最後ぐらい夢を語らせると共に、もし変わる場合でもその理由などを考えさせる機会を持たせてほしいと思います。先生方にも、大変だと思いますが、一人一人その子のいいところやすごいところを発見して褒めてやってほしいです。2番の評価は、もう少し上がってほしいと思います。

(小野瀬会長) ありがとうございます。あまり会長が発言するべきではないと思うのですが、やはり私もこの数値、非常に興味深いと思っておりました。小学校6年生と中学校3年生を比較して、数値的には中学生の方が低くなっていますが、ただその中身は精査しなければいけないと思います。アンケートにある夢とか目標というものは、やはり小学校6年生と中学3年生では捉え方が違うのではないかと、漠然としたものから具体的なものへと変わるのではないかと思います。そうすると項目がどうなのかなどとったりします。こういう数値について、事務局で何か話題になっていることがあれば是非お願いします。

(土田指導主事) はい。2番の「将来の夢や目標について」、それから1番の「自分にはよいところがある」という項目につきまして、令和3年度につきましては、平成30年度よりだいぶ下がってきております。全国の平均値よりは高い数値とはなっておりますが、近年の中でも特に低い数値となりました。要因の1つとしましては、令和元年度末から令和3年度の初めにかけて、新型コロナウイルス蔓延防止のために3か月間の臨時休業期間がございました。その年度末、そして学級開きの大切な時期に級友と顔を合わせることができず、家庭で過ごしていた、そういった影響もあるのではないかとということで考察をしております。こちらについては、実際の子どもたちの様子等、学校の先生方によく観察をお願いしまして、注目していきたいと考えております。

(小野瀬会長) ありがとうございます。他にございますか。

(小島委員) はい。統計によりますと、OECDの中で、夢を持ってない子どもたちが日本に多いということです。アメリカとか中国とか韓国だとか、みんな夢を持っています。考えてみると、日本人の場合、「ダメだ、ダメだ」という否定的な話が多くて、我々大人自身もそれほど夢を持っていないのではないかと、大人がもうちょっと夢の話をしないと、子ども達に夢を持ってといっても効果

が薄いのではないかと思います。息苦しい時代が来ているような感じがして、何かしないといけないと感じております。地域環境作りのようなものが必要だと思います。

(小野瀬会長) ありがとうございます。本当に大事な論点だと思います。家庭であるとか地域であるとかで、大人が子どもに将来の希望に向かう姿を見せるということが本当に大事であるという風に、今の話を聞いて思いました。その地域で子どもたちをどう育てるかということに、また小中一貫教育と非常にリンクしたお話かなと思います。

(石島課長) 先程、担当の説明の中に、「コロナ禍で」という一言で片付けてしまった部分がありましたが、実際、学校の実情を考えると、今までできていた学校行事ができなかったというような不安な要素がたくさんあったのは事実です。子どもたちの学校生活の活動の様子などを見ていますと、今まで、なんでもできた学校生活ができなくなってしまったということで、確かに少し厳しい評価になっていたのは事実だと思います。そのような中で、今年度については、コロナ対策を十分に行い、各種行事、運動会、それから修学旅行、その他宿泊行事も実施している実情です。そういうことも含めて小島委員や伊沢委員からもありましたように、その学校での取り組みと、夢を持たせるものも含めて、充実感を味わえるような指導を各学校でしっかりとやって頂いているところであります。さらに、本日のご意見を頂きまして、各学校にも再度呼び掛けていきたいと思っております。

(小野瀬会長) ありがとうございます。

## (2) 本年度の各中学校区における推進について

(小野瀬会長) 続きまして、本年度の各中学校区における推進内容について、各中学校区の代表委員より説明をお願いしますが、中学校区ごとに報告～質問という流れで行いたいと思います。それでは、はじめに「南河内小中学校区」海老原委員よりお願いします。

(海老原委員) [資料：南河内小中学校 小中一貫教育グランドデザインについて説明]

(小野瀬会長) それでは報告が終わりましたので、ご質問等はございますか。

(平石委員) 南河内小中学校が開校して5か月ぐらいですが、義務教育学校になって変わったことはどのようなことですか。

(海老原委員) 1年生から9年生が同じ屋根の下にいるということに違和感がなくなったように感じます。低学年の児童は、9年生を最終目標にしてその姿が見られるので、「自分も大きくなったらああなりたい」というような目標が立てやすいと思います。上の子達は下の子達をよく面倒を見ています。先日も、怪我をした小さい子を後期課程の生徒が素早く介護し、保健室に運び込む姿を見ました。小中交流の面で、現在とてもいい状況にあるなと思っております。

(松本委員) 地域としても、学校をどこまでサポートできるか協議中です。具体的に構築して、学校との接点を増やしていきたいと思っております。

(海老原委員) スクールバス利用児童は約200人いるのですが、バス停まで、地域の方々がとてもよく見守ってくださっていて、その辺のバックアップは、登校

班通学の時よりも手厚いという話を聞いており、非常に有難く思っております。

(小野瀬会長) それでは次に、南河内第二中学校区のご報告を、田澤委員よりお願いします。

(田澤委員) [資料：下野市小中一貫教育グランドデザイン（南河内第二中学校区）について説明]

(小野瀬会長) それでは報告が終わりましたので、ご質問等はございますか。

(服部委員) 二中学区では年に一回「合同学校運営協議会」を開催していますが、会議の内容が「クリーン活動」のみなので物足りなく感じています。「学習について」など、テーマを決めて建設的な話し合いができると更によいと思っています。事前にテーマを決め、集まって議論し、次の会までにやっておくことを議論し、次の会に報告していくというような流れがいいと思うのですが、年に一回しかないものですから、報告にありました「グランドデザイン」が浸透していない気がします。やはり、一体型の学校とは違うなという印象を受けます。それでも、この学校区でできることをやっていこうと思います。

(田澤委員) 貴重なご意見ありがとうございました。一体型ではない学校区で、会議の持ち方であるとか、教育、行事等について、もう少し突っ込んだ話題も聞けるよう検討して参りたいと思います。

(渡邊副会長) クリーン活動を地域とのつながりということで実施していましたが、グリーンタウンは石橋中学校区とか国分寺中学校区とかとは違い、地域の中の心のつながりがやや希薄であると感じています。もともと3校で実施していた活動を、「地域にも参加してもらいましょう」ということで学校運営協議会から発議があったものです。服部委員の考えを会議に提案していくといいのではないかと思います。

(平石委員) 二中学区は、小中一貫教育推進の条件が整っている方だと思います。その良さを生かして、急がずにやった方がいいと思います。

(小野瀬会長) ありがとうございました。クリーン活動は、子ども達の育成、地域と子ども達の心のつながりを醸成するための手段であって、目的ではないと思います。

それでは、次に石橋中学校区のご報告を、設楽委員よりお願いします。

(設楽委員) [資料：下野市小中一貫教育グランドデザイン（石橋中学校区）について説明]

(小野瀬会長) 報告ありがとうございました。それでは報告が終わりましたので、ご質問等はございますか。

(小島委員) 現在、石橋中学校では、不登校が問題になっています。石橋中学校区のグランドデザインでは、2022年から2023年は「心の教育」というのが実践研究として大きく取り上げられていますので、不登校の問題に力を注ぐべきかと思っています。学校運営協議会としてはどのようにサポートしてよいかかわからず、ただただ心配しているばかりです。

(小野瀬会長) 「不登校についての効果的な対応」なども小中一貫教育の大事なテーマになると思います。何かよいお考えがありましたらお願いします。

- (小島委員) まず集まって話し合うことが必要かと思います。学校と地域との一体化がかなり厳しいので、情報共有が必要になっています。是非とも、合同で話し合う機会を設けていただきたいと臨んでおります。
- (設楽委員) 現在、5つの学校で話し合い、合同学校運営協議会を12月頃に実施しようと計画を立てているところです。
- (小野瀬会長) 最後に、国分寺中学校区のご報告を、石島学校教育課長よりお願いします。
- (石島課長) [資料：下野市小中一貫教育グランドデザイン（国分寺中学校区）について説明]
- (小野瀬会長) それでは、報告が終わりましたので、ご質問等はございますか。
- (菅井委員) 学校運営協議会では、小中一貫教育についてはあまり話題になっていないので、学校の状況はよくわかりませんが、地域の清掃活動とか中学生の読み聞かせなどが好評であるということは聞いています。
- (小野瀬会長) 現在、コロナ禍という状況の中で、先生方が小中一貫の目標を掲げて日々取り組んでいること、また状況を共有することができたのではないかと思います。また、成果や、会議の持ち方やテーマ等の課題も見えてきたかと思います。ありがとうございます。

## 9 議事

### (1) 今後の推進について

- (小野瀬会長) では、報告が終わり議事ですが、事務局から「今後の推進について」説明をお願いします。
- (土田指導主事) 各中学校区の先生方から今年の取り組みのお話があったところですが、事務局としては、特に、「各学校区の特色を活かした小中一貫教育の充実」ということで、そして、「地域と共にある学校を目指すための取り組みの更なる充実」というものを図っていきたいと思っております。委員の皆様からのご意見なども伺いたいと思っておりますので、よろしく願いいたします。
- (小野瀬会長) ただいま、事務局の方から今後の推進について説明がありました。皆さまから質問または確認等ございますか。
- (小島委員) 現在、大松山運動公園において年中無休で毎朝ラジオ体操を実施しています。大人40人ほど、子どもも10人ほど参加しています。先日も子どもにカブトムシをプレゼントしたら大喜びでした。大人が子どもを褒め、地域から子ども達へアプローチしていくことが大切かと思います。地域で子どもを育てるという意識を大人が持ち、そういう機会を作ることが大切だと思えます。子ども達は地域とつながることで、社会性が育ち、大人も子ども達から元気をもらえる、そういうことで、ラジオ体操は適していると思えます。
- (小野瀬会長) ありがとうございます。やはり子どもの教育というものは、家庭だけでなく、学校だけでなく、地域だけでなく、多面的であると思えます。子ども達にとって、異なる分野の活動というのはとても大事だと思います。その中で、小島委員のおっしゃるように、子どもの学びとか成長を共有する場があって、それがまた家庭や学校に伝わり、子ども達が育っていくというように

なるのかなと思います。大変貴重なご発言であったと思います。ありがとうございます。

(石崎教育長) 小中一貫教育と地域と共にある学校とは、まるで車の両輪のように動いていただきたいと思います。ですから、小、中学生が別でもいいから同じ活動をする、或いは、中学生が小学校に行って地域の方と何か活動するとか、こういった形で進めていただきたいと思います。中学校は地域に対して少し壁があるように感じますので、その点は小学校の地域との関わりを活かして中学生も同じように地域と関わるのができたらよろしいかなと考えております。南河内小中学校は小・中学校が一緒の学校ですから、小中一貫教育の推進に本当に期待しております。国分寺中学校区でも、2、3年前から人数の関係があるため、代表者による合同学校運営協議会を開催しております。小中学校の9年間、義務教育の9年間で、その地域に生きる子ども達をどのような子どもに育てるかが一番肝心なことであります。その時、地域のことを一番よく知っているのは地域の方ですから、小学校、中学校区で合同の学校運営協議会を持ってもらって、子どもの育成について話し合っただけでいいと思います。そういう観点から見ると、一つお願いがあります。石橋中学校区のランドデザインについてです。「学校運営協議会」が地域連携の所にあります。関連図でいえば、5つの学校の中に入っていきべきではないかと思えます。地域にある学校と学校運営協議会が、車の両輪のように動いて、小中学校9年間でどのような子ども達を育てるかを描いたのが、このランドデザインですので、その位置づけの確認をお願いします。学校と学校運営協議会の関係は、学校で困ったことがあったら、委員の方に、地域の人材を紹介いただいたり、お知恵をお借りしたりするなど利用させていただくという関係であってもよいかなと思います。

(小野瀬会長) はい、ありがとうございました。今後の推進について情報の共有ができたと思います。

## (2) その他

(小野瀬会長) その他ですが、委員の皆様より何かございますか。まだご発言いただけない委員の方、いかがですか。

(瀬端委員) 中学校は地域にやや壁があるとのことでしたが、高校はもっと壁があります。石橋高校は、現在、下野市在住の生徒は10%を下回ります。地域に馴染みがない状況で地域貢献する活動は、なかなか厳しいものがあります。

(宮崎委員) 南河内小中学校は、よい環境を作っていただいたので、小中一貫教育の最前線を走って行けるように、PTAとしても協力していきたいと思えます。一つ気になるのが、iPadが一人一台配置されていますが、あまり活用されていない気がします。

(大塚委員) 保育の現場では、「学びの基礎・10の姿」という目標を掲げ、小学校への連携ということで職員が共通理解し、幼児に指導しております。自分たちのしていることは、小中一貫教育に関わることだと思っています。また、私事ですが、我が子はコロナ禍真っ只中での中学校生活でした。コロナ禍で様々な行事が中止される中、先生方はなんとか子ども達に素敵な思い出を

もってもらおうと工夫してくださいました。本当に感謝しております。保護者は、後でその事実を知った訳ですが、手紙などで、その工夫を知らせていただいたら、もっと感謝できたのにと思いました。

(小野瀬会長)      ありがとうございます。事務局から何かありますか。  
本日の議事内容は、以上になります。活発なご協議、ご協力ありがとうございました。